

みんな

よくなれ

令和五年十二月二十二日発行

29回生通信
第29号

順番

五組担任 中島 健太郎 先生

大学時代のアルバイトで一番苦労したのは、ペーカリーレストランでのホールだと思う。お昼時には常に満席になるお店で、中でも人気がパンの食べ放題だ。このパンがまた美味しい。それもあつてランチ時は目が回る忙しさで、気づいたら夜ご飯時、というようなことも多かった。

そういう仕事であったので、優先順位をつけて行動することが本当に必要なことだった。お冷オーダー、セッティング。(パン) スープ。料理、食後のコーヒー。片付けが基本の流れで、これが滞らないように各テーブルごとの状況を見て動いていく。会話少なく食べるのが早い卓、子どもがいる卓、早く提供できるピザを頼んだ卓などに気を配り、お冷やパンがきれいなように目を配る。途中お皿が欲しいなどの注文を受けたり、パフェが遅いと声をかけられたりと突発的なことも起こるので、いつも複数のタスクを背負った状態だった。何を優先して動くかすぐに判断し、行動ができるようになるまでに一年はかかったと記憶している。

受験までの限られた時間をどのようにして過ごしたら良いか考えてみて欲しい。Xを見る、終わらないゲーム、それは机に向かうことよりも優先順位は高いことだろうか。高校生である時間の残りの少なさを考えてみてほしい。

また、数学の課題ノートを見て非常に残念だと思っていることが、解答の丸写しだ。その問題をわからないなりに考えたり、教科書を振り返ったり、解き直したりすることはできないだろうか。もし時間が足りないならば、早めに取り組みんだり、時間を作ることに努めたり、今からでも課題の取り組み方を見直してみてもいい。

「壺をいっばいにするには」という有名な話がある。詳しくは調べてほしいが、壺を大きな石で満たすことは難しい、ということだ。大きな石というのは自分の中で大切にしたいもの、運ぶのが簡単な砂を優先して入れていくと、石を後になって自分の中に入れていくことができなくなる。つまり、大きな石を優先して入れていくべきだということだ。数学でいう大きな石とは、考え方や計算・公式の使い方などの技術のことだ。公式を使うのにも練習が必要である。高校生は勉強だけではないかもしれないが、残り時間は限られている。苦手なことにはじっくり向き合えるのは、この冬しかない。



高大連携授業

十一月二十八日(火)六・七校時に高大連携授業が行われました。一年生の時は、学年全体が一堂に集まって講義を聞きました。そのため、会場は先端科学技術支援センターの大ホールでした。授業回数の間四回は一年も二年も同じですが、二年生では文系理系を取り交ぜた各種講座から各自が選択する形式になりました。今回、附属高校まで来ていただいた六名の先生方のご専門や講義テーマを紹介いたします。また、生徒代表の謝辞も掲載します。

A 国際商経学部 中村 友哉 先生 専門は英語(経営)

B 工学部 布引 雅之 先生 専門は機械・材料

C 工学部 西岡 洋 先生 専門は応用化学

D 理学部 草部 浩一 先生 専門は物質科学

E 環境人間学部 中出麻紀子 先生 専門は食物・栄養

F 環境人間学部 柴崎 浩平 先生 専門は社会・環境

A 英語(経営) 中村先生

謝辞 片岡 庵 さん

今日は、連携授業をしていただきありがとうございます。ご講義が僕には難しく、あまり理解できませんでした。それでも、グループで話し合っ、意見をまとめた

今日、先生は、連携授業をしていただきありがとうございます。ご講義が僕には難しく、あまり理解できませんでした。それでも、グループで話し合っ、意見をまとめた。今日、先生は、連携授業をしていただきありがとうございます。ご講義が僕には難しく、あまり理解できませんでした。それでも、グループで話し合っ、意見をまとめた。

B 機械・材料 布引先生

数学は計算だけでなく、その前に日本語の問題文を数字語に変換する教科です。僕は、その翻訳をする作業が苦手でした。しかし、この能力は才能ではなく技術的なものです。つまり、ずっと訓練することで、だんだん向上していきます。これは、工学にも繋がることで、問題の本質的なところを取り出して、その問題を解決する方法を見つけることができます。この本質を捉える力を磨いて将来の進路選択に活かしたいです。



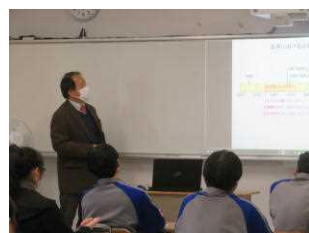
五組 中井 翔一朗 さん



四組 片岡 庵 さん

C 応用化学 西岡先生

食物の可能性 二組 市原 康士郎 さん
僕自身が食物に興味があり、植物を利用した環境修復というのとはとても興味深かったです。僕は植物を基に自然の調査、保護、再生を行うことを将来の目的としています。そのため植物が汚染された環境の修復にも使うことができるということを知り、植物の持っている可能性に気づくことができました。今回の講義はより植物への興味を深められ、さらにその可能性に気づくことができるという、とても有意義な時間でした。



二組 市原 康士郎 さん

D 物質科学 草部先生

高校生にはまだ早い? 三組 西面 妃奈乃 さん
草部先生、今日はお忙しい中、私たちのために連携授業をしてくださり、ありがとうございます。私は先生の授業を受けるまで、応用数学に対して、「なんか難しくてややこしいやつ」程度の認識しかありませんでしたが、今回の授業で解像度を上げることができました。専門用語が出てきた際、身近なもので譬えてくださったお陰で、分かりやすかったです。まだまだ若輩者ですので、理解できない部分もありましたが、新しい世界を知りたい機会になりました。本当にありがとうございます。



三組 西面 妃奈乃 さん

受講者数と各役割分担

A	中村先生	21名出席	司会	一組	尾野ひなた	記録	四組	植田 賢斗
	誘導	一組	春國 凜	記録	五組	日野 成美		
B	布引先生	30名出席	司会	五組	米本 春樹	記録	二組	和田 望来
	誘導	三組	南 勇希	記録	四組	谷口 祐亮		
C	西岡先生	29名出席	司会	五組	中島 輝	記録	三組	藤田 夏穂
	誘導	五組	大隅 志乃	記録	四組	牧 結莉音		
D	草部先生	10名出席	司会	五組	鏡 翔乃介	記録	四組	尾崎 梨乃
	誘導	二組	吉田 朱利	記録	五組	山下 蒼空		
E	中出先生	30名出席	司会	四組	佐野 正悟	記録	二組	小林 千紘
	誘導	一組	駒田 七咲	記録	三組	福本 七海		
F	柴崎先生	28名出席	司会	五組	藤田 湧喜	記録	二組	荻野 美咲
	誘導	四組	西塚いづみ	記録	二組	釣 菜々美		

※ 出席者数は欠席者を含む当初の予定人数です。

謝辞は裏面に続きます。

E 食物・栄養 中出先生

公衆衛生学を学んで 五組 浦川 凜菜 さん
 本日はお忙しい中、私たちのために授業をしてくださりありがとうございます。私たちは普段、多くのことを意識せず直感的に選択し、商品を購入したりしていますが、そこにはさまざまな販売者側の意図が含まれていることが分かり、衝撃を受けました。これだけを聞いて私は選択行動を誘導されることをネガティブに感じましたが、このようなナッジを健康づくりに活用することに大きな驚きをもちました。今後、私たちは自分や家族の健康について考える機会が増えると思いますが、そのときはナッジを上手く利用していきたいと感じました。



浦川 凜菜 さん

F 社会・環境 柴崎先生

柴崎先生の講義を聞いて 三組 溝川 優 さん
 柴崎先生、本日はお忙しい中、私たちのために連携授業をしてくださり、ありがとうございます。ため池は兵庫が一番多く、たくさんの方が管理して私たちの生活に使われていると知って、ため池への印象がとて良くなりました。また農業や農村がなかったら、土砂崩れや洪水などを防ぐためにたくさんのお金がかかると知って、自然の大切さを実感することができました。本日は、ありがとうございました。



溝川 優 さん

高大連携授業アンケート結果

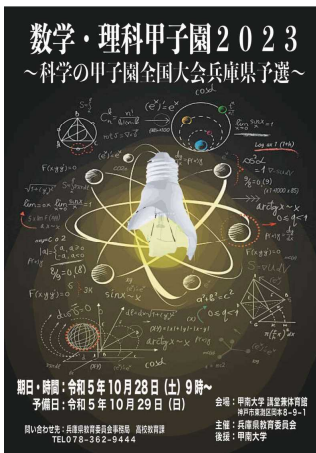
- 問1 授業内容に興味が持てましたか。
 興味を持って 65%
 一部興味を持って 30%
 あまり興味を持ってなかった 0.7%
- 問2 授業内容は理解できましたか。
 よく理解できた 43%
 だいたい理解できた 46%
 あまり理解できなかった 6%
- 問3 授業内容は、あなたの進路を考えるきっかけになりましたか。
 他の分野を志望していたが、この分野も考えたいと思った 41%
 以前からこの分野を志望しており、さらに固まった 21%
 自分の進路を考えるきっかけにはならなかった 33%
- ※どの問いにも、欠席者の5%（七名）が省略されています。

次の第三回高大連携授業は十二月十九日（火）に行われました。年明けの通信で報告します。

数学・理科甲子園準優勝

十月二十八日（土）に「数学・理科甲子園2023」の兵庫県予選が行われました。会場は、甲南大学の講堂兼体育館でした。参加資格は兵庫県内の高校の一年生で、一チームは六名です。今年は六十一校が参加し、兵庫県大会優勝と全国大会出場を目指して競いました。筆記による予選、実技の本選を経て、決勝が行われました。附属高校チーム「アングチョウ」は、予選、本選を順調に勝ち上がり、決勝でも順位を上げて、準優勝の栄誉を手に入れています。それでは、数学・理科甲子園に出場した29回生を紹介します。また、引率をされた上田先生に戦歴を書いていただきました。出場者の感想も掲載します。

なお、附属高校は出場回数十八回となっていて、最多の出場回数を誇っています。理数に強い附属の本領発揮といえそうです。



- 29 回生のメンバー
- 五組 川崎 晴香 さん
 - 中井翔一朗 さん
 - 安川 弥来 さん
 - 米本 春樹 さん
 - ※他の二名は一年生
 - 引率 上田啓太郎 先生

上田先生による戦評

予選 チーム対抗で数学・理科・科学技術などの知識を問う問題及び知識の活用について問う問題を解き、個人戦と団体戦の総合計によって、15校の本選進出チームが決定しました。附属は7位で本選出場を決めました。

本選 数学の思考的な問題に挑戦し、予選の成績と合わせて決勝に進出する5チームが決定しました。附属は六人が力を合わせて難問に取り組んだ結果、好成績を収めることができ、予選から順位を上げて4位で決勝進出を決めました。

決勝

科学的知識を応用した総合的な課題に取り組み、ICT活用能力、論理的思考能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを用いた問題解決力を競いました。短い制限時間の中、課題を解決するための実験方法や条件の検討を行い、実験を複数回行って得られた結果を用紙にまとめていく活動を六人で手分けして行うことができました。緊張感のある中、生徒たちが活き活きと取り組んでいる様子が印象的でした。発表では実験の条件検討や実験結果、そこから考えられることについて、丁寧に説明することができました。

予選及び本選の成績も考慮された結果、見事準優勝に輝きました。この活動を通して、より科学への興味・関心を高め、将来の進路実現に向けた糧としてくれることを願っています。

準優勝メンバーの感想

- 五組 川崎 晴香 さん 中井翔一朗 さん
 安川 弥来 さん 米本 春樹 さん

大会要項は熟読しよう

数学・理科甲子園兵庫県大会準優勝。なかなかすごい成績のように思う。（欲を言えば優勝したかったが。）では、この好成績には何が起因しているのだろうか。チームとしての団結力か、放課後に解き直した過去問か、各々の勝利への執念とプライドか。どれも違うというわけではないが、明確にこれのおかげで勝ち進むことができた！というものが一つある。それは、「出場者が受付時間までに全員集まったこと」だ。そんなことかと思うかもしれない。しかし、実は一人体調不良で出場できなくなり、当日の朝、一時間以内に甲南大学岡本キャンパスに来れる人がいなければ出場資格すら無かったのだ。何人かに電話をかけたが、グループLINEで呼びかけをしていると、ある一人の生徒が「行きます」と声をあげてくれた。その生徒こそが、川崎晴香である。彼女がいなければ準優勝はありえなかった。ということで、誠に勝手ながら川崎晴香を今大会の MVP とさせていただきます。こう思う。

国際地理オリンピック

十二月九日（土）に国際地理オリンピックの第一次選抜試験が行われました。国内では年明けに二次、三次と選抜試験が行われ、来夏にはアイスランドで世界大会が行われます。一次選抜は第五回定期考査の期間中でしたが、多数の29回生が参加しました。



実施日時 十二月九日（土）
 十五時三十分～ 60分
 内容 マルチメディアテスト
 会場 オンライン実施
 29 回生の参加者 78 名

今後の行事予定（2年生関連）

- 12月
 21日（木）海外研修報告会
 22日（金）全校集会
 25日（月）冬季休業開始
- 1月
 8日（月）成人の日
 9日（火）大掃除、LHR、課題考査
 11日（木）寮生集会
 長距離走前健康診断
 13日（土）大学入学共通テスト
 ～14日（日）
- 15日（月）寮生を送る会
 20日（土）進研実力試験～21日（日）
 23日（火）高大連携授業
 25日（木）中学入試会場準備 6限
 16時完全下校
 26日（金）登校禁止
 27日（土）中学入試 登校禁止
 28日（日）全統模試 希望者 校外
- 2月
 1日（木）1限 9:00 授業開始
 2日（金）情報モラル講演会 7限
 3日（土）進研マーク模試 4日も
 12日（月）建国記念日振替休日
 13日（火）入試会場準備 16:00 下校